

平成30年度 第58回 米子市美術展覧会(市展) 部門別講評

洋画部門

今回の米子市美術展覧会は昨年より22点増え個性的な力作が見受けられたが、審査に当たっては相当に難航した。特に受賞作を選ぶ際に市展賞の選定が非常に難しかった。大田雅さんの「温故知新」はすんなりと決まったが、残る一点を松下昇司さんの「大神山神社奥宮」にするか宗内彰志さんの「大山」にするか非常に迷った。宗内さんの作品は小品ながら完成度が高く、また松下さんの作品は完成度では劣るものの大らかな空気感が感じられる。最終的に松下さんの作品がもう1点の市展賞と決まった。奨励賞の各作品もそれぞれ甲乙付けがたい個性が感じられ、市展のレベルは確実に向上していると思われる。

(評者:倉鋪 悠)

日本画部門

出品作品が少なかったが、題材が多様で一人一人が創作意図を明確に持って取り組んでおり魅力に富む内容であった。どの作品も丁寧に描かれて好感を持った。日頃の苦労がしのべれます。作品の中には想いが先行し、表現技術が後追いになっている作品も見受けられました。基礎的な勉強の積み重ねがより良い作品を生んでいくと思います。

(評者:西尾 克己)

書道部門

今回展は昨年より4点増の103点の応募があった。過去4年で最高の出品数、喜ばしいことである。漢字、仮名、調和体、篆刻作品と幅広い書風の作品があり、味わい深く鑑賞していただけたと思う。特に新人の出品もあり、半切作品にも立派な作品が多く見られた。日頃の各書団体の研鑽と書の普及活動の成果が表れているのではないかと。今後は楽しみな市展になった。

(評者:森田 尾山)

写真部門

幸いにも応募作品点数は微増であった。見せる側、見る側のイメージを増幅させる様な作品が少なかったと感じた。又、プリント技術の差が、そのまま入賞ラインの差に現れたのではないのでしょうか。

(評者:福島多暉夫)

工芸部門

毎年の工芸作品の出品物を視させてもらい、出品点数が増す事を期待して視せて戴きますが、作品のジャンルに片寄りが近年目立ち、陶芸、木彫が多く、ガラスが少々…。工芸部門の間口は広く、布を使った物は皆無は残念です。出来るだけ出品の依頼は個別に運営、審査員共々していますが、出品点数の増加に繋がらないのが残念です!! 作品を造る事が楽しい過程が視える作品が多い事は喜ばしいです!!

(評者:安藤 祐三)

彫刻部門

今回の彫刻部門の一般出品作品は2点と非常に寂しい限りであるが、出品された2点は、いずれも高いレベルの作品であった。「エンターテイナー」はPOPな作品で、色彩も鮮やかな楽しい作品である。「NUDE」は、トルソを正確なタッチで作りあげている秀作である。もう少し額縁や木箱との関係性などを吟味されるとさらにすばらしい作品に仕上がると思われる。今後、彫刻部門に出品される方が増え、よりバラエティに富んだ作品でいっぱいになることを期待している。

(評者:永江 靖幸)